

平成 29 年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立十王中学校 教諭 飛田 美岐

- 1 派遣期日 平成 29 年 11 月 24 日 (金)
- 2 研修先 学校名 神奈川県横浜市南高等学校附属中学校
所在地 〒233-0011

神奈川県横浜市港南区東永谷 2 丁目 1 - 1

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/hs-minami/>

- 3 研修内容 テーマ 教科書を有効に使う手立て
～コミュニケーション活動の充実を図り、確かな英語力をつけるために～

(1) 研修選定の理由

本研修では、「教科書を有効に使う手立て」に焦点を当て、次期学習指導要領で述べられている「主体的・対話的で深い学び」ができる授業を目指すため本テーマを設定した。

研究の視点を以下の 2 点とする。

- ① 教科書を有効に活用した授業展開の方法
- ② 自分の言葉で表現する力をつけるための手立て

(2) 視察校の教育特色

南高校附属高校中学校英語科では、「自分の言葉で自己表現できる生徒の育成」を目標とし、言語習得の観点からインプット重視の授業作りを展開している。また、授業形態は、1・2 年始は 2 クラスを 3 グループ展開の少人数制を取り、1 グループ 26～28 人で展開をしている。授業展開は、全学年とも授業の流れを統一してあり、ラウンド型シラバス（以下、教科書 5 ラウンド制）を採用している。多くの英語を聞かせることと何度も言語材料に触れること（スパイラル学習）に重きを置き、授業に取り組んでいる。以下が、授業展開を図式化したものである。

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年	ラウンド	Book 1 Round 1		Book 1 Round 2	Book 1 Round 3		Book 1 Round 4		Book 1 Round 5		Book 2 Round 1 Unit1,2		
	帯	・基礎1を基にした会話(T-S,S-S)											
	LL	・フォニックス						・与えられたトピックで会話(T-S,S-S) ・物語作り(スピーキング) ・会話→リポート					
2年	ラウンド	Book 2 Round 1 Unit 3~9		Book 2 Round 2		Book 2 Round 3		Book 2 Round 4		Book 3 Round 1 Unit 1~4			
	帯	・基礎2を基にした会話(T-S,S-S)→ライティング ・グループチャット→リポート ・チャット→ライティング ・ショートストーリー(100語程度)リーディング→スピーキング ・チャット など											
	LL	・グリーンブック ・ブルーブック ・AETとチャット ・多読(年明けから)											
3年	ラウンド	Book 3 Round 1 Unit 5~7		Book 3 Round 2	Book 3 Round 3		Book 3 Round 4		高学年向け Round1				
	帯	・Myシリーズ スピーチ(日本文化・町・サブカルなど) ・多読(他社教科書) ・short story reading→スピーキング ・フリーチャット ・Retelling ・基礎3 など											
	LL	・レッドブック ・ブルーブック、グリーンブック発音チェック ・AETとチャット ・多読 ・リテリング											

(3) 研修の内容

① 教科書を有効に活用した授業展開

「教科書を有効に活用する授業展開」について視察校では「教科書 5 ラウンド制」を取り入れていることもあり、教科書の言語材料に触れる回数が多い。今回参観した時期が教科書 4 ラウンド目だったこともあり、アウトプットの時間を十分に確保していたので、1 時間の授業の中で教科書を使った活動は、ほんの 20 分程度であった。教科書を開けば、全員の生徒がすらすら音読し、その後自分の言葉で教科書の内容を英語で説明していた。(リテリング)

1 年生の活動では、教科書の文が A 動詞抜け B 並び替え C 最初のアルファベットのみ D 全て空欄の 4 パターンが用意されており、A から順番に音読していく活動をしていた。また人を変えたり、ひとパターン終了後教科書を確認したりする工夫がされていた。生徒は言いたかった文を教科書で

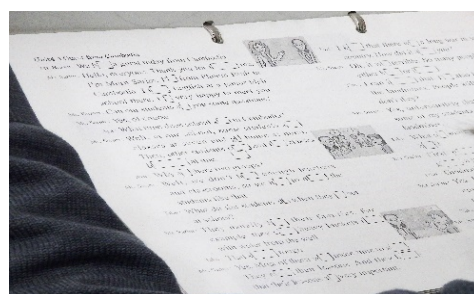
確認でき、次の音読の際に言えるようになる経験ができていた。2年生の活動では、リテリングの活動を実施していた。最初にピクチャーカードを利用して話の流れを全体で確認した。その際にどんなことに注意を払い、リテリングするかを教員が事前にモデリングしていた。特に5W1Hを中心に話を進めることで相手に伝えられるよう促していた。リテリングは3パターンのペアでおこなうことでレベルアップを図り、より深い説明になるようにしていた。教員は途中で生徒とのインタラクションを加え、表現の方法や言い回し等のヒントを与えており、生徒の発言を生かした授業になっていた。3年生では全体で登場人物や内容の確認を行っていた。リテリング→フィードバックの流れができており、自分が話した内容をペアと確認することで次のリテリングに生かせる流れになっていた。フィードバック後にペアを変えて何度も実施することで情報量を多くし、伝わりやすい表現を使うようになっていた。

② 自分の言葉で表現する力をつけるための取り組み

まず、インプット活動とアウトプット活動の反復である。特に最初の20分を使った帯活動で実施しているアウトプット活動が有効に行われていた。この時間に生徒は自分の考えや経験等を英語で相手に伝えていた。間違いを恐れないアウトプット体験を十分に重ね、その際に「もっと言えるようになりたい」と思わせる題材や表現活動を扱っていた。あるテーマに沿って自分のことを英語で話すためには、前ラウンドで扱った内容や表現のインプット活動が重要であると多くの生徒が感じている。このようなアウトプット活動が教科書を扱うインプット活動により影響を与え、教科書の内容を何度も繰り返し取り扱うための動機付けになっている。また、インプット→アウトプット→フィードバック→インプットの流れが授業内でできており、生徒の発話量が増えていた。インプット活動の後にはアウトプット活動を行う流れの中で生徒の「できた」を実感できる機会を設けていた。

次にフィードバックの時間を設けることである。生徒同士はもちろん、先生一生徒のインタラクションの中でのフィードバックがある。一生徒と先生であっても、自分のことのように話を聞くのは、先生からのフィードバックを聞き逃さないためであった。その中で会話の内容を広めたり、情報を付け加えたりするなど、会話の幅がわかりやすく広がっていった。

最後にライティング活動である。2・3年生は帯活動時に話した内容を3分間ひたすら書き続ける「3分間集中ライティング」を毎時間実施していた。ここでの目的は正確性の「質」ではなく、スピード重視の「量」であった。スペルや文法のミスの指摘はしていないということだった。他にも教科書の内容の速写やラウンド5で実施するリテリングで聞き取った内容を書くことも実施していた。毎時間実施することで教科書の正しい文と比較し、自分で気づく場も設けている。



(教科書の内容をリテリングする様子 (90～120秒)) (穴あきリーディング)

4 感想

今回、くり返し学習を根気よく続けることの重要性を強く感じた。教員側が繰り返し教科書に触れる機会を多くとる仕掛けをしており、生徒自ら教科書を確認したいと思える授業が展開されていた。また、生徒の発話量の多さにも感銘を受けた。間違いを恐れず話す姿勢は子どもたちに必要である。そしてアウトプット後のフィードバックの重要性を感じた授業だった。改めて英語は、体験して覚えていく教科書だと感じた。学力差のある一般の公立中でも取り入れられるエッセンスはたくさんあったので、実際に教科書を何度も読みたくなる仕掛けやフィードバックの時間を増やしていきたい。